

## アマダイ通信NO.44

(Tile fish network letter)

04年炎暑の候

知人・友人各位

残暑お見舞い申し上げます。トルコ航空の直行便で昼2時成田離陸、北の空を12時間飛び、時差6時間のイスタンブールに夜8時着。ガラガラとエアコンの音のうるさい夜明けのホテルで、ポケットのCDプレーヤーの河島英五の野風僧の曲にかぶさるように、モスクのミナレットから礼拝を呼び掛ける朗唱が聞こえます。

これで五回と例年に増して海外旅行が多いのは、残り少なくなった持ち時間を意識するからでしょうか？思いがけず手にした一千万円の保険金にはしゃいでいるだけなのでしょうか？

### 週に一度も休肝できなかつたのに？

昨年三月大腸がんで腸を30センチと周囲のリンパ節9箇所を切り取る手術をして以来、現在の医学のレベルでは癌との闘いも順調に進んでいるようです。月一度5泊しての抗がん剤集中投与も、5クルーを大した副作用もなく終え、年明けからは毎日抗がん剤の5FUを朝晩一服ずつ飲み、隔月に1回三楽病院の阿川外科部長の診察を受け、2回に1回血液検査、半年に1回CTを撮り画像診断を受けます。その間旧然と変わらず仕事をし、毎晩酒を喰らい、二ヶ月に1回のペースで海外に出ているのに、癌再発のシグナルの腫瘍マーカーも低いままですから、癌は何処へ行ったんだろうという感がないでもありません。

8月頭の診察でも阿川先生が二ヶ月前の血液検査のデータを見て、おーいいね。皆正常値だね！休肝の成果だね！と嬉しいことを言ってくれます。でも先生、その時は二ヶ月でまだ五日しか休肝できてなかつたんですよ！この二ヶ月は週一日、大体土曜日休肝してますけど。と返すと、じゃもっと良くなってるね、とデータを渡してくれます。見れば高かったZTTが18.1 10.5、ASTが43 30、ALTが53 25、低かったクレアチニンが0.69

0.76 ナトリウムが136 141、クロールが99 104と一応皆基準値の範囲に収まっています。週に二日休肝できればもっといいのかもしれませんが、土曜日飲まない日曜の夜はどうしても、ビールに手が伸びます。それでも飲む時も多少自制心が働くのか、73キロまでいった体重が手術で68キロまで減り、その後73キロに戻ったのが、現在は70キロまで少しですが落ちています。このまま二年過ぎ、五年経って完治となればいいのですが、必ずしも不治の病ではなくなったとは言え、癌にはまだわからないことも多いのです。実際、何の自覚症状もないままに、ほとんど治癒する見込みのないというステージ - bにまで進行していたのですから、今“絶好調”に飛び回っていても、体のどこかで癌は悪さをしているのかも知れません。


だが、わからないことをあれこれ心配しても仕方ありません。人はいずれ死ぬのだし、50代半ば過ぎまで生きて子供二人もどうにか育ち、“妄想”の大きさの割には大したこともできなかったけれど、人に恥じるような生き方をした訳でもない。問題は見えない癌に振り回されるのではなく、残りの時間を主体的にどう生きるか。20代半ばくらいから誰にでも発生する癌細胞です。手術で病巣を取り切れても、リンパ節にまで転移していたのだから、体の何処かに潜んでいるのでしょう。多分癌自身も長生きしたい筈だ、宿主をそんなに早く殺したくない筈だと勝手に思って、一緒に生きて行くしかないのでしょう。



### 文明の興亡・・陽は再び昇るか？


インド、中国を旅し、今年の日の出をエジプトのシナイ山で迎え、今イラクの隣国トルコに身を置くと、文明と社会の在り様に多少の感慨を覚えます。勿論トルコとイラクとは違います。第一次大戦後のアタチュルクの革命以来、回教国ながら世俗国家の形態を維持、NATOの一員のトルコ。日本より乾燥しているため緑が少し薄いのですが、沿海部の気候・風土は似ています。イスタンブールからブルサを経て、内海のマルマラ海沿いにエーゲ海に抜けてイズミールまで走ると、なだらかで広い丘陵には小麦畑が広がり、川の畔には緑の水田が開け、傾斜地には山頂から海までオリーブの畑が雪崩れ込む。家々やモスクの庭には夾竹桃や百日紅、カンナが美しく、紫陽花もまだ頑張っています。

同じ回教国で世俗国家のエジプトに比べても自由で緑多く、豊かです。マシンガンのボリスが至る所で目を光らせる訳でもありません。走り回る車も街も小奇麗です。バグシーシー（喜捨を！）と手を出し寄って来る物乞いも少ないし、何処へ行っても千円！千円！と駆け寄る土産物売りもしつこくありません。しかし、これがハブスブルグ帝国と覇を競い中世ヨーロッパを震撼させた覇権国家オスマントルコ帝国の末裔だとすると、往時には比ぶべくもない。ガイドのガンさんによるとまだ農業が産業の枢要を占め、トヨタやベンツ、ルノーなどの自動車工場はあるが、半導体などのIT産業は全く駄目で、繊維などの軽工業も中国に押されているので豊かになれないという。

そのガンさんが、が何度か中国へ行ったことがあるということ、誇り高いオスマントルコの末裔としてかつての覇権国家中国の動向が気になるのか、しきりに聞いてくる。思えば、エジプト、チグリス・ユーフラテス、インダス、黄河の世界四大文明発祥国は全て衰退しトルコも然り。盛時を髣髴とさせる国はない。近頃、新興大国BRICS（伯露印中）の一員と持て囃されるインド、中国であるが、陽は再び昇るのであろうか？

### マクロとミクロ・・何が国民を幸福にするのか？

この所の中国の国内総生産の伸びは著しく、日本も早晚追い抜く勢いである。インドのIT産業の発展も素晴らしく、アメリカの失業を増やしていると非難される。ブラジル、ロシアの経済発展も力強く、国際政治の舞台での活躍も目立つ。マクロで見るとこれら諸国の世界の政治経済に於ける存在感は目を見張るものがある。

しかし、これら諸国は人口大国でもあり、マスとしての経済力を人口で割ったミクロの指標は惨憺たるもので、おまけに貧富の格差が酷く、社会の安定的な基盤となる中間層が薄い。一人当たりの経済力が小さい上に、天と地ほどの格差がある。も世話人をするNPO「緑の地球ネットワーク」が、中国の山西省で緑化事業のために雇う作業員の最低日当は8元（120円）。発展著しい上海や北京の沿海部3億人の中国と、日当8元の十億人の中国がある。ブラジルからは日本への出稼ぎが多く、自国で豊に暮らせれば出稼ぎなどしない。ロシアの街角や地下鉄の駅では年金生活者が、リンゴ箱の上になけなしの家財道具を並べて売り飢えを凌ぐ。資本にとって市場として魅力があるマクロの経済力と、個々の国民を幸福にするミクロの指標は別物である。

人口の多さからも、インドと中国がアメリカに対抗しうる次代の“覇権国家”として喧伝されるが、とてつもない富豪がいる一方で、路上で生まれ路上で死んでいく膨大な数の民の存在するインド。ニューデリーのホテルを一步出た途端、漆黒の闇に光る無数の瞳。国民の間の絶望的な断裂と、あの闇の瞳を野良犬か羊の目としか感じぬかのような支配層。



インドの大富豪にしてくれると言っても私は断る。あの絶望と怨嗟の眼差しをそのままに、良心の呵責に耐える自信はない。インドが一つの国家として再び輝くことは難しい。

他方中国の指導部は沿海と内陸の格差、貧富の差をどうにかしようと西部大開発を呼出し、公共事業を大盤振る舞い、外資を呼び込み更なる経済発展を図ろうと躍起である。しかし、共産党指導部の意図とは裏腹に、沿海と内陸、それぞれの内部での所得格差は更に拡がり、共産党への権力集中の裏返しとして末端まで権力の腐敗が進む。力をつけた資本の目は海外に向き、税制もうまく機能していないので、日本の高度成長期のように、地方交付税交付金や補助金によるインフラの整備と投資の誘導で地方の嵩上げを図り、国土を均衡に発展させるのも難しい。そして経済的な豊かさと格差の拡大はいずれ政治的な自由と自治、分権の要求を強めるだろう。中国がこれらの問題を克服、強大国の繁栄を取り戻し、唯一、世界に範たる文明国家として復活することは可能であろうか？

### 少子高齢化は悪いことか？・・団塊の世代として

昇り竜中国の発展と裏腹に、世紀を跨ぐ経済失政と、少子高齢化の急進展を背景に日本の将来について悲観論が蔓延している。確かにいずれの国家にも興亡は常であり、人口の減少は国内総生産を減少させるかも知れない。しかし、マスとしての発展で国民の幸せが計れないとすれば、少死高齢化は悪いことではない。それは長寿社会の実現として喜ぶべきことであり、子供が少ないということは、教育を含め子供への投資が少なく済み、その分他に資源を振り向けることができる、大人がより豊かに暮らせるということである。一概に悲観すべきことではあるまい。又、異常に繁殖してしまった人間の地球に与える負荷がその軽くなるという意味では、人類の未来にとって歓迎すべきことだ。

そうは言っても、少子化は労働人口の減少と社会の活力の減退をもたらし、高齢化は若年者の負担の増大と年金財政の破綻を来すと危惧される。この二つはコインの裏表の関係にある。労働力の不足は元気な高齢者と女性の雇用を促進することである程度補える。欧米と異なり日本人は年とっても何らかの形で働く、社会貢献することを厭わない。女性にとっては働く場がない、社会参加できないことが今でさえ問題なのである。結婚しても、子育てしながらでも容易に働ける環境になれば出生率も向上し、社会も活性化する。高齢者と女性の雇用が進めば、年金を負担する層が増え、支払いも抑えることができ、年金制度の破綻を防ぐことも可能になる。

戦争の落し子として生まれながら戦争を知らない団塊の世代。しかし、突出して周りの世代よりも数が多いが故に、受験だ、就職、出世だと人生の節目毎に“戦争”を余儀なくされた。今又、年金を巡る世代間の“戦争”のシナリオに踊らされる愚は避けねばならない。右肩上がりの経済を前提に掛金の少ない前の世代には年金を大盤振る舞いし、支給を目の前にすると赤字だからと負担は増え、支給は減らされる。踏んだり蹴ったりだと恨みの一つも言いたくなるのは人情だ。が、視点を変えれば年金として親の世代が受け取った分だけ、親を扶養する個人の負担は軽くなった筈。我々団塊の世代が年金として多くを求めれば、我が子への負担として跳ね返るだけである。足りない分は国が払えという者もいるが、お札を刷って済む問題でもない。掛金と言おうが、税金だろうが、企業が負担するか個人かという問題はあれ、税で賄うしかなく、その源泉は労働である。労働なくして企業にも個人にも所得はない。団塊の世代が元気に働き続けることが年金制度にとっても個々人にとっても最適解である。今や最後の“戦い”に！残された時間は少ない。



### 伊藤祐一郎君鹿児島県知事に

長く自治省の要職を歩んできた駒場の中国語クラスの二回目の一年生の時の同級生伊藤君が、総務省の総括審議官を辞して先の参議院選と同日投票の故郷鹿児島県知事選に立候補、見事初陣を飾った。六月に熊本出張があったので前日の夕方鹿児島へ入り陣中見舞い。鹿児島市内遊説から戻った伊藤君を激励。少年の頃相撲で鍛えたという短足胴長の体一杯に自信を漲らせて、瞳のきれいな美人の奥さんと一緒に夜の郡部の演説会に飛び出す伊藤君を見送る。

翌朝開業間もない九州新幹線に乗り熊本へ。6両編成と短い4列シートで前後の間隔もゆったり。黒が基調のシックな内装で座席には木も使い、効率重視の他の新幹線に比べ乗り心地はとていい。在来線の長崎本線や鹿児島本線でも短編成のシックな内装の特急を20~30分間隔で走らせ、福岡から長崎や熊本へ便利で快適な旅ができる。鳥栖での長崎 熊本乗り換えもスムーズ。うまくスケジュールが組めると羽田から熊本に飛んで午前中一つ仕事、熊本から長崎へ列車で向かい午後もう一つ仕事の後、博多の中州で一杯飲みながら打合わせ、福岡空港から遅い便で羽田へ帰るのも可能だ。人口希薄で利用客の少ない九州ならではの鉄道の在り様だが、少子高齢化時代の鉄道の在り方も知れないと考える。景気の回復基調に伴い他の新幹線は当日では指定券が手に入らないことも多く、如何に効率よく人を運ぶかが課題だが、人口減、旅客減の時代には少ない要員でどれだけ快適で便利な旅を実現するか、旅行者を増やし収益を上げるかがテーマになる。

それにしても奇妙な選挙だった。中盤というのに、鹿児島の中心街の天文館や鹿児島中央駅などで幟を立て、チラシを配り、宣伝カーを流すのは伊藤君の陣営だけで、自民党の推した県会議長陣営の姿が見えない。地元出身とは言え中央からの落下傘候補。知名度を上げるには目立たなくては行けないが、上滑りにならないか心配になる。が、利権屋で談合が得意だから裏で票固めしてるだけじゃないの、という伊藤君の言葉通りになった。地方分権推進委員会の事務局長として、地方分権と市町村合併の推進役だった伊藤知事には、少子高齢化時代の地方自治の範を示してもらいたい。余裕ができたなら、全共闘時代の対立を引きずって中々成立しない42L 2Eのクラス会の酒の肴にもなってもらいたい。

### タイ25歳、妹の学費とマイホーム資金を稼ぐ

6月にチェンマイへの安いパックを利用、藤井由美さんが運営するタイの就学支援施設バーン・サン・ラックに読者の皆さんのカンパを届ける。木曜日の昼成田を発ち、バンコク経由でチェンマイに夕方着く。翌日は古都チェンマイを観光してホテル泊、土曜の昼近くに藤井さんに迎えに来てもらい、チェンライのバンブーハウスに1泊、子供達と遊び、日曜日の夜チェンマイ空港からバンコク経由で月曜早朝成田着。事務所に直行する。

最少催行人員2名なのに、アマダイ一人のツアーで現地の女性ガイドが一人つく。タイ25才、チェンマイ大学の日本語科出身。チェンライの洋服仕立て屋の娘だが、父親は酒飲みで彼女が大学1年の時に亡くなる。他にリタイアして在住3年の日本人夫婦にタイ語を、タイ人に日本語を教える稼ぐ、働き者だ。高校生の妹と二人でチェンマイのアパートに住み、学費は自分が出している。母親も呼び一緒に暮らそうと、56平米の戸建住宅を80万バーツ(160万円)で買い、台所、風呂、トイレ設備は自分の費用で取り付けて都合100万バーツ。完成後月々4千バーツ(8千円)のローンを返済するという。因みに、藤井さんのアシスタントの月給が1万5千円で高い方という。しっかり者だ。



安売り航空券より安いツアーなので、到着日の夜の食事が無い。ガイドにタイ料理の美味しい所をと案内してもらおう。一人で食べても味気ないので、彼女にもご馳走する。話が弾む。干場さん！寂しいでしょう！とガイド。彼女の会社はJTBなんかの仕事もするが、一晚1万5千円で女性も紹介するので、どうかという。一夜の“恋”が1万5千円か！女が女を売るんだ！恋ほど素敵なものはないと思うけど・・・は絶句。

### 雨蛙と一緒に和食を！

一人寝の夜が明けると、リゾート風ホテルの中庭のプールの、無垢の水がきれいだ。小さな蛙が泳いでいる。迎えが来るまで時間がある。海のないチェンマイで泳げるとは思わず、海パンは持ち合わせなかったが、蛙に変身することにする。濃紺のボクサータイプのパンツでプールに飛び込む。前開きだがはみ出すほど大きくはない。空が俄かに掻き曇り、大粒の空の神様の小水が落ちてくるが、私は蛙だ！気持ちがいい？

雑貨屋の親父さんのピックアップトラックをガソリン込み2千バーツでチャーターして、チェンライの在の村から3時間ほどかけて昼近くに藤井さんがホテルに到着。お昼は和食がいいという。ホテルのフロントで聞くと近くのホテルの赤門がお勧めだ。何でチェンマイに東大が？と思いながらもピックアップを走らせる。ランチの竹寿司二人前と、和食は駄目というおじさんがカレーライスを頼み、女ウワバミとでシンハービール小瓶2本とお燗1本を和服のタイ美人にお酌してもらい1500バーツ(3千円)。

日に焼け、土間に胡坐で座り、右手で食べ、すっかりタイ美人に変身したと思った藤井さんだが、帰りのチェンマイの夕食も和食がいいという。ガイドに携帯で教えてもらい新築のITプラザ1階の富士に入る。バンコクにもあるチェーン店という。夏というのに石狩鍋とつまみを幾つか頼み、焼きそば、たこ焼きのお土産とビール2本、冷酒2杯、お燗2本で1800バーツ。次回は絵の具の他に日本酒も土産に持参することにする。

### シンちゃんは卒業できないの？

前々号で日本でのお父さんとの感動的な再会をお知らせした日タイ混血のシンちゃん。お母さんの生活も立ち直り、バーン・サン・ラックを卒業して一緒に生活している筈でしたが、まだいます。

お父さんとの再開後父親からの送金があって実入りの良くなった母親の生活が荒くなり、中古の車を買ったり、ヨーロッパ人の愛人ができたり。拳句の果てにその男が人身事故を起こして行方をくらませ、母親の生活も元の木阿弥に。

屈託なくにまとわり付くアカ族の“弟妹”4人と、心なしか元気のないシンちゃんを前に、私の所に送金してくれば良かったのにと悔やむ“タイ美人”。

その後も原田直子さん、金谷暢夫さんからカンパをいただきました。ありがとうございます。バーン・サン・ラックへの寄付は下記口座へお願いします。

郵便振替口座番号 00130 - 7 - 409212 口座名称 バーンサンラック応援支隊

### 帰化した汪君北京から嫁さん連れ帰る

ハルピンから東大の大学院に留学して日本企業に就職、帰化して三王に改姓した東大三鷹学生宿舎OBの汪君から電話。転職するので身元保証人になってくれとのこと。二人必要とのことで、寮で2年下でKDDIを中退、投資ファンドを運営する勝部日出男君に頼む。



暫くして又、汪君から電話。結婚するので今度彼女を連れて行きますと弾んだ声。相手は女？ふざけて聞くと、北京から連れて来ると言う。

トルコから帰ると、フリーターの娘が上海への1年間の語学留学に出発するというので、バタバタしている。時々海外旅行にも付き合ってくれるし、いなくなると寂しいが、上海から帰って来ない可能性もない訳ではない。秋田で高校の英語の先生をしている姪が、ミネソタに留学して恋をし、今では一緒に秋田で家庭を持ち、子供もできたが、娘もどうせなら向こうから連れて来るくらいして欲しい。時々カラオケで団塊ネットの前田君に教えてもらった「ミネソタの卵売り」を歌うが、その時は「上海帰りのリル」も歌おう。

調子外れの歌は別にして、今や簡単に海外に行き、又、来てもらう人材交流の時代なのだと思う。ただ汪君のように日本で就職するよりも、更にアメリカなどに向かう留学生も多い。海外の才能にとって日本がもっと魅力的な留学先、就職先になればと思う。そうすれば団塊世代と女性が頑張っても不足する分を彼らが補い、日本を活性化してくれる。

昨年度も読者の皆様から沢山のご支援をいただきましたが、東京大学留学生支援基金のパンフレットを同封致しますので、今年度も宜しくお願い致します。

### 「旅に求めるもの」……第10回能代山本フォーラム21のご案内

講師 楓 千里 (かえで ちさと) JTB出版事業局 広告本部長

節目の今回は女性講師に登場してもらいます。才色兼美の天女の微笑の美女と何で如きかという方もいらっしゃるかと思いますが、国土交通省後援の路上観察学会(赤瀬川原平他五人衆)全国徘徊(現在山陽道を西下中)を「旅」に連載してもらったご縁です。

世界遺産白神山地を訪れる観光客も増えてまいりましたが、掛け声のほどに観光産業は育っているでしょうか？観光客は旅に何を求めるのか？それを深く知らずして観光産業を発展させることはできません。外から日本を眺めるとこれほど緑濃く、起伏に富み、山紫水明の国はありません。その中でも白神はピカイチです。三峡下りの揚子江も茶色のドブ川です。世界遺産のベトナムのハロン湾も透明度は1メートルほど。美しい山と海がこんなに近い世界遺産はありません。雪降る冬も台湾や東南アジアの方にとってはとても魅力的で、東大の留学生にはスキー講習会が大人気です。視野を世界に広げれば市場は無限です。それにどうアプローチするか？

交通公社で長らく旅行雑誌の編集に携わり、国の各種審議会委員なども勤める旅の達人、旅行雑誌「旅」前編集長の楓さんに、過疎化の急速に進む能代山本の救世主となりうる、観光業の要諦について語っていただきます。

#### 講師プロフィール

1978年学習院大学法学部卒業、(株)日本交通公社入社、出版事業局配属。海外ガイドブック、月刊誌「るるぶ」の編集などに携わり99年から「旅」編集長、04年4月から現職。長野県観光審議会委員、岡山県国際化円卓会議委員 農林水産省「e-むらづくり計画」アドバイザー 国土交通省近畿地方整備局御堂筋委員会委員、国土開発幹線自動車道建設会議委員他

日 時 9月10日(金曜)午後2時半開場、3時開会、5時より懇親会  
場 所 能代キャスルホテル 平安閣  
会 費 講演会無料 懇親会5千円  
申込・連絡先 飯坂 誠悦 ( /fax 0185-54-8953 )

尚、簡単な白神ツアーのパンフレットを同封します。読者の皆様には是非一度、山海の豊かな故郷を訪れて欲しいと思います。



## 現代女子大学生気質・・・三鷹クラブ第56回定例懇談会

今回の講師は、32年東大三鷹寮入寮の高木郁朗・日本女子大学家政学部長です。

昭和32年三鷹寮入寮の有志10数名で結成された「錯和(チョンボ)会」という集まりがあり、年に1度は、寮時代を偲ぶ貧乏旅行に出かけ、暮れには忘年会をやる。なかなか結束が固く集まりも良い。会員の多くは、寮時代に、優等生どもが梁瀬さんの運転するGMのバスで登校した後、やっとノコノコと起き出していた面々である。今回、この「錯和会」から、初めて講師に登場した高木青年も寮に居残っていた。だが、それは決して怠惰だったせいではなく、大学の教室に出て、もはや得ることが無いので、寮に残ってマルクスの勉学に励んでいたのである。

高木青年は、安保・三池闘争のあった大学在学中に、当時、「昔陸軍・今総評」と呼ばれた、輝ける総評の書記局に調査マンとして入った。さらに請われて社会党の政策審議会に移り党のブレーン・トラストとして活躍、革新陣営のホープと目された。その後、著述家を経て学者に転じ、武蔵野美大講師、さらに、山形大、日本女子大学の教授として、日本経済、労働経済を講じてきた。この間、著書数は本人にすら不明とのこと。とはいえ、著書、編・共著、訳書などを合わせると、優に100冊を超える。論文に至っては無数である。一貫して、革新の立場で所説を展開してきた。その学術的評価は荒木健一大兄の紹介に譲りたい。

日本女子大学の高木ゼミには、なぜか美人が多いとの評判である。今回の講演でその謎が明かされると期待している。ところで、教授は本年度から、家政学部長に就任した。そのせいで、土曜日にまで、ネクタイに縛られる日々だとボヤキが出ている。大きな黒のリュック・サックを背負って、およそ、身なりには無頓着だった教授が、昨今は、髪を撫で付けたりして、身嗜みに気を配っている。平賀会長いわく、「先生、この歳になって身綺麗になりましたね」だと! (山田陽一 記)

日 時 平成16年9月27日(月) 18時30分~21時

会 場 学士会館本館320号室(千代田区神田錦町3-28 TEL:03-3292-5931)

会 費 5,000円(会場費、夕食・ビール代、講師料、通信費等込み)

定 員 100名(先着順、定員を超えない限り特に連絡はいたしません)

二次会を予定しています(約3,000円、近くの中国料理SANKOUEN)

申込先 平賀俊行 FAX 03-5256-0458 TEL 03-5256-0455 (株)国際研修サービス

干場革治 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182 (有)ティエネットワーク

e-mail: [tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp](mailto:tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp)

尚、次回57回は11月25日(木)に、日本郵船(株)宮原耕治社長(S40年入寮)を講師に、海運業のこれからについて話していただきます。社長就任祝賀・激励会を企画しようとしたのですが、先輩の多忙につき果たせないまま、講演会となりました。いつもの通り二次回も予定していますので、祝賀・激励の場ともさせていただければと思います。

## 寮委員会不成立、事務所で暑気払い

三鷹寮自治会は昔から半年交代で、選挙で選ばれる。複数の立候補者が前提なのだが、6月の選挙は残念ながら立候補者なしで新委員会は成立せず、暫定的に前の委員長の笠原さんが委員長を務めているとのこと。委員会が交代するとOBが現役を招待、交流会を持つ。



今回は期末試験中の者もいるが取敢えず7月末に、事務所で暑気払いをすることにする。

メンバーは笠原 由加里(三重、理 2年)、亀田 堯宙(東大寺学園、理 2年)、齋藤大輔(洛南、理、工学部電気系B《情報・通信》)、寺嶋 隆満(開成、文、総合文化M2)、日比野 有美(愛知・一宮、理、薬4年)、羽鳥 潤(土浦第一、理 2年)、小川 愛美(松江北、文4年)、谷川 千博(小野、文 1年)、チェン ミュ キング(マカオ、理 2年)、豊野 まなみ(新潟・六日町、農3年)、藤田 まどか(宮崎西、理・情報科学)、坂東 樹(岡山白陵、文 1年、理 から再受験、2000年入寮)と現役が12名。

椅子が足りず、前日小平のホームセンターで折りたたみ椅子を買って、車で運ぶ。OBが平賀代表(S26年入寮)と(41年入寮)、孫、親子ほど年の違う14人が宅配の鮭やピザ、ツマミを囲み、遅くまで話に花を咲かす。俺、明日試験だ!これから勉強だ!というツワモノも。

### 追分寮閉寮パーティ近づく!

は追分寮には入っていないのですが、三鷹寮の先輩の黒田さんが中心で取り組み、更に元三鷹宿舎生の津田量君が最後の寮生で、最近平賀代表も追分寮OBということで頑張っているの、案内を転載します。関係者は奮ってご参加ください。

名簿作成のための情報収集作業はなかなか進みません。長濱弁護士事務所から600通以上の往復はがきを出しましたが成果はなかなか上がりません。64年の追分寮の歴史の中にあって殆ど名簿が存在しない年次が幾つもあります。7月現在の出席予定者は45名程。入寮第1期生(昭和20-23年入学)の方も出席されます。お誘い合わせのうえ多数ご出席頂きますよう幹事一同準備してお待ちしております。

場 所 学生会館別館6号室(大赤門横) 03-3814-5541

日 時 9月11日(土) 13:00 受付開始 14:00 開会 幹事からの説明、意見交換  
16:00 会場移動、山上会館(三四郎池と御殿下グランドの上)にて立食パーティ、  
全体および世代別記念写真撮影

18:30 終了

会 費 3000円

問合先 長濱毅03-6888-1025(山田秘書) ([tsuyoshi.nagahama@andersonmori.com](mailto:tsuyoshi.nagahama@andersonmori.com))

黒田朗03-5815-6858([a-kuroda@sozo.ac.jp](mailto:a-kuroda@sozo.ac.jp))、 [a-kuroda@lime.plala.or.jp](mailto:a-kuroda@lime.plala.or.jp)

114-0014 東京都北区田端1-9-5-104 電話 03-5815-6858

豊橋創造大学経営情報学部 [a-kuroda@sozo.ac.jp](mailto:a-kuroda@sozo.ac.jp)

### 最後に

この夏休みはトルコを楽しむ。特にベリーダンスは出色だった。北海道の病院から諏訪中央病院に転職するという、同行の小手川医師の弟さんが三井物産のイスタンブール駐在で美味しいトルコ料理店(道中一番美味しかった)とダンスを案内してくれる。エジプトのナイルクルーズのディナーショーとは天地の差だ。それでも帰るとやっぱり、和食と演歌と、大和撫子がいい。もうタイでの生活が4、5年になる藤井さんでもやっぱり和食と日本酒が恋しいらしい。多分、それぞれの国に、それぞれの“和食と演歌と大和撫子”があって、だからその国を良くしようとか・・・発想するのでしょうか。濃淡はあれ。再見!

